

氏名 黒 住 陽 一

学 位 (専攻分野の名称) 博 士 (医 学)

学 位 授 与 番 号 博 乙 第 2316 号

学 位 授 与 の 日 付 平 成 3 年 9 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者

(学位規則第4条第2項該当)

学 位 論 文 題 目 Ex Vivo Perfusion of the Liver With Anti-Class II Antibody Can Prevent Acute Rejection in Canine Liver Transplantation (抗クラスⅡ抗体ex vivo Perfusionによるイヌ移植肝拒絶制御の効果)

論 文 審 査 委 員 教授 寺本 滋 教授 辻 孝夫 教授 赤木忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

イヌ肝類洞壁構成細胞 (SLC) は、主に肝類洞内皮細胞 (SEC) 及びクッパー細胞 (KC) 等によって構成されその細胞膜表面にクラスⅡ抗原を表現している。そして、クラスⅡ抗原陽性の SLC は、肝移植において抗原提示細胞として働き、拒絶反応を引き起こす重要な因子であることがわかっている。本研究は、移植前にドナー肝を抗クラスⅡ抗体 (OKIaI) で ex vivo perfusion し、クラスⅡ抗原をマスクすることにより、拒絶反応を制御しうるかを検討したものである。in vitro (MLR, ML-SLCR) にて OKIaI で、クラスⅡ抗原をマスクすることによりドナー PBL, SLC のアロ抗原刺激能は抑制された。また、同所性肝移植においても、ex vivo perfusion 群は、肝機能検査及び組織学的にも、無処置のコントロール群に比べて有意に急性拒絶反応は抑制されていた。従って本研究の結果より、抗クラスⅡ抗体 ex vivo perfusion により、拒絶反応の制御や併用する他の免疫抑制剤との相乗効果等、臨床的にも期待できると考えられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は犬の肝移植に際して、移植前にドナー肝を抗クラスⅡ抗体で ex vivo perfusion し、クラスⅡ抗原をマスクする事により拒絶反応への効果を検討することにより急性拒絶反応抑制に関して重大な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。